

おはなしトレイン

がっこう し えん たん どう し し ょ
学校支援担当司書が、みなさんにおすすめの本を選びました。

しょうかい ほん ち ょ だ く り つ と し ゃ か ん し ょ ぞ う
紹介している本はすべて千代田区立図書館に所蔵しています。

イチオシ!

『きょうは かげで おやすみ』



パトリア・マクラ克蘭/ぶん ウィリアム・ペン・デュボア/え 大日本図書

おでこがあついエミリーは、どうやらかげをひいたようです。ベッドにねかされたエミリーは、体温計をさがすパパにおねがいごとをします。

「ヘラジカのぬいぐるみをさがして」、「サンドイッチをつかって」、「ロマンチックなおはなしをして」…。パパは、どんなおねがいもすぐになえてくれます。「かげでお休みするって、ほんとにたのしい!」パパと過ごすエミリーのゆかいな一日。

イチオシ!

『えほん東京』



小林 豊/作・絵 ポプラ社

海へいきたいぼくに、おじいちゃんは「海なら、おまえの目のまえにあるぞ」と指をさします。するとそこに、品川宿の海と昔の人々の暮らしが見えてきました。舟にのって川を進むと日比谷の入り江。目の前には東京駅と江戸城が見えます。昔の東京と今の東京を見比べてみてください。みなさんのよく知っている九段坂やお茶の水、神田川も出てきますよ。

イチオシ!

『とびきりすてきなクリスマス』

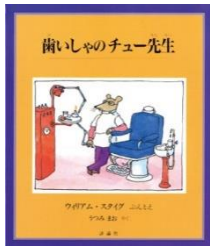


リー・キングマン/作 山内玲子/訳 岩波書店

エルッキ・セッパラは、クリスマスのことを思っただけでワクワクしていました。ところが兄の乗る船が行方不明という知らせが届き、クリスマス気分は台無しに。そんな時、エルッキは物置で板切れを見つけ、いいことを思いつきました。クリスマスはプレゼントをもらえる日だけではありません。セッパラ一家のすてきなクリスマスは、読む人を幸せな気持ちにしてくれます。

5・6年生

1・2年生



『歯いしゃのチュー先生』

ウィリアム・スタイグ/ぶんとえ
うつみ まお/やく
ひょうろんしゃ
評論社

ねずみのチュー先生は、うでぎきの歯いしゃさん。大きな動物のかんじゃさんには、はしごをかけたリ、ちゅうづりになったりして歯のちりょうをします。きけん動物のちりょうはしません。ところがある日、キツネが歯がいたいとなきながらやってきました。チュー先生はちりょうをすることに決めましたが、今にも食べられそう。でも先生には、ある作戦があったのです。



『イワシ』

おおかた ただあき
大片 忠明/さく
ふくいんかんしょてん
福音館書店

イワシを食べるのは人間だけではありません。大きな魚や鳥、さらにはクジラもイワシを食べて生きています。これだけたくさん生きものたちに食べられてしまうのに、なぜイワシはいなくなるのでしょうか。きびしい自然界を生きぬいてきた、イワシのすがたをえがいた絵本です。今にも動き出しそうな生き物たちの絵は、とても見ごたえがありますよ。

3・4年生



『しずく的首飾り』

ジョーン・エイキン/作
ヤン・ピアンコフスキー/絵
いわなみしょてん
岩波書店

風の夜、ジョーンズさんは、木の枝に挟まれた北風を助けてやりました。北風は助けてくれたお礼にと、生まれたばかりのジョーンズさんの娘に、キラキラ光る雨粒がついた「しずく的首飾り」をくれました。けっして外してはいけないというその首飾りは、とても不思議な力を持っていたのです。この他に『魔法のかげぶとん』など、8つのお話が入った短編集です。



『しりとりボクシング』

あらい 新井 けいこ/作
はせがわ はっち/絵
こみねしょてん
小峰書店

学年行事で行うことになった「しりとり大会」の練習でも盛り上がる4年2組。言いまちがいが多い健太のために、恭平はしりどりの特訓を持ちかけます。恭平には健太を助けたいある理由があって…。しりどりの練習を通じて「好敵手」となった二人。大会でぶつかり合う様子は、まるでボクシングさながらです！

5・6年生



『ぎりぎりの本屋さん』

まはら 三桃, 菅野 雪虫, 濱野 京子,
くどう じゅんこ ひろしま れい こ ちよ
工藤 純子, 廣嶋 玲子/著
こうだんしゃ
講談社

「ぎりぎり」って、もうこれ以上余裕がないということ。そんな気持ちや時間のゆとりがない時は、商店街を抜けて古ぼけた本屋さんに行ってみませんか？ ぎりぎりつづれないその本屋さんでは、店員さんがその人にピッタリの不思議な物語をえらんでくれますよ。5人の人気児童作家たちによる作品集。前作『ぐるぐるの図書館』もおすすりめです。



『ノロウェイの黒牛』

なかがわ ちひろ/文
さとう ゆうすけ/絵
しゅっぱん
BL出版

身の毛もよだつ怪物だといわれる「ノロウェイの黒牛」。それなのに末のおすめはどんな人と結婚したいのかと聞かれると、「わたしは、ノロウェイの黒牛でもいいわ」と笑いながら答えます。するとある朝本当に、大きな黒牛がおすめをおかえにきてしまいました。スコットランドの昔話。あとがきには、お話についての豆ちしきがのっていますよ。

